

令和6年度 広陵町子ども・子育て会議 議事要旨

日時:令和6年11月19日(火)午後1時30分~午後3時00分

場所:広陵町総合保健福祉会館 4階 中会議室

1. 会議次第

1. 開会
2. 教育長あいさつ
3. 会長あいさつ
4. 議事
 - (1)子ども・子育て支援事業計画(第3期)素案について
 - (2)その他
5. 閉会

2. 配布資料(事前送付分含む)

- ・会議次第
- ・広陵町子ども・子育て支援事業計画(第3期)素案

3. 会議出席者

委員:16名のうち10名出席

事務局:8名

オブザーバー:2名

4. 議事要旨

1. 開会

2. 教育長あいさつ

「10月末から11月にかけて町の催し物がいろいろあった。文化祭もあったし、スポーツフェスティバルもあった。天気も良く、600人以上の方々に来ていただいた。その中で子どもさんを連れだご家族の姿が非常に多かった。子どもさんが楽しく、いい笑顔で元気いっぱいスポーツしてもらったので、本当に良かったと思う。また、親子で一緒に楽しんでもらえて良かった。

前回の会議では子どもの生活実態調査、若者に関するアンケート調査の内容をご審議いただいた。子どもの生活実態調査については、先日校舎長会でお話しさせていただいた。私の思いとしてはやはり担任の先生から子ども達に趣旨等を説明して実施してもらおうのがいいと

思う。本日の会議では、子ども・子育て支援事業計画の第3期の素案を検討いただく。こどもまんなか社会の実現に向け委員みなさまのお知恵を頂戴したいと思うので、どうかよろしくお願ひしたい。」

3. 会長あいさつ

「本日は広陵町子ども・子育て支援事業計画第3期について議論をさせていただく。これまでのみなさまの豊富なご経験と、知識を共有していただき、忌憚ないご意見を賜りたいと思っているのでよろしくお願ひしたい。」

4. 議事

〈事務局〉 議事(1)について説明

配付資料に沿って、広陵町子ども・子育て支援事業計画の素案について説明。

〈会長〉

「委員の皆さんにご意見を順番にお伺ひする。」

〈委員 A〉

「私は10年前、高齢者のボランティアをしていた。それと共通することで、地域の支え合い、地域作りというのが大事。主任児童委員になって、お母さんたちからいろんな話を聞くが、行政がやっていることを割とご存じない。もっといろんな人に周知して、子育てしている人以外にも、子どもと一緒に地域で育てるということを一緒にしましょう、というようにできたらいい。もう少し周知して、町全体でやっていけたらいいと思う。」

〈委員 B〉

「住民の姿があまり見えない。36ページの基本理念のところは『ともにこどもを支え合う地域づくり』はイメージしにくい、『ともにこどもの未来を応援する地域づくり』だったら、イメージしてやりやすいのでは。全体の計画の中で2点着目した。25ページの地域の方等に子育てを手助けしてもらうことについて『特になし』の割合が増えている。基本理念に地域づくりが入っており、この結果は逆行している。何かしら手立てが必要。例えば、重点施策1の学校以外の居場所について、居場所の確保はだれが作るのか。地域全体でつくっていかないといけない。重点施策3の虐待の防止について、体制の構築が必要。地域の間関係が緊密になったら声かけから虐待を防げるかもしれない。もう一つは、26ページ子育てしやすい環境かどうかについて、子育てしやすいと思っている人が下がっている。子育て支援サービスが充実していないという理由が伸びている。重点施策2のニーズに応じたサービスの提供で、やはり保護者のニーズや満足しているかをもっと検討するべき。」

〈委員 C〉

「22ページ協力してもらえる親族や知人について、親御さんは子育てもして仕事もして頼れる場

所が少ない。親のストレスは子どもに直結する。ストレスのケアをちゃんとできない人もいる。ちゃんとしている人を見て自分を責める。もう少し、頼れる場所がある、こういう場所がある、というものをわかりやすく、敷居が高く感じないように提案できる場所があればいいのでは。」

〈委員 D〉

「子育てと就労のバランスを支援する環境づくりで町のほうでいろんな取組をしているが、その取組を知らない保護者が多い。例えば保育園は利用の仕方は皆さん知っているが、ファミリーサポートは自分が利用できるのかはあまりわかっていない。病児保育も知らないお母さんが多い。事前に登録しておかないといけないことも知らないなので、いざ使いたいときに準備しておかないと使えない、ということもある。また、コロナ禍に子どもと高齢者を接触させないようにしたことから、困りごとは家庭内で解決しないといけない状況になった。今でもそのような気持ちが残っている。もう考え方を変えていってもいいと思えるような、こんなことができますよというお知らせをしたら、サービスを利用しやすいと思う。」

〈委員 E〉

「14ページの調査人数について、未就学児の保護者1000人は全体の何%か。38ページからの施策の説明で、「広陵町ならでは」でやっていることがやっていることが何かあるのか興味がある。それから、子育てしやすい環境か、というところが下がっていることが気になる。また前回との比較がここに載っていない。これから2期、3期とすすめていく中でどうなったら広陵町がよしとするのか目標がわかりにくい。」

〈委員 F〉

「学校職員という立場から。55ページ自分らしく育つ環境づくり、こどもの居場所で、学童のニーズが年々高まってきており、町と協力しながらすすめている。広陵放課後塾は、各学校小学3年生の児童を毎週水曜日の放課後に授業をしてもらっている。こちらでも反省を踏まえながら、改善等を含めてやっている。60ページ心の相談員は、今までカウンセラーへの相談は敷居が高いものだったのが気軽に相談できるようになり、それだけ心のよりどころになるところを求めておられると感じている。不登校も増えており、不登校支援ということで、町の方で作業療法士に来てもらったり、教室に入れない子どもに対応するような新たな予算付けにも動いてもらっている。それから地域と学校をつなぐ学校支援地域本部とコミュニティスクールは、高齢の方が増えており、この間全家庭にもう一度お願いをしたところ。こういったところで、学校としては、もう少し外とのつながりを密にしながら進めていけたらと思っている。」

〈委員 G〉

「幼稚園でも預かり保育を利用されてフルタイムで働かれるお母さんが増えてきた。その中で病児・病後児保育を『利用したいと思わなかった』のところで、なぜ利用したいと思わなかったのか。利用の仕方が分からないという方がたくさんいらっしゃる。先ほども言われたように事前登録が必要。面接もあり、人数制限もある。そういうことがよくわからないから利用したいと思わなかった

のかもしれないので、よくお知らせした方がよい。それから放課後塾の話があったが、例えば園でも空いているお部屋を使用して新しい放課後の過ごし方ができれば。」

〈委員 H〉

「保育園でも、関わりを拒む保護者が増えており気になっている。相談しやすい環境や機会を保育園として何かつくっていったらと考えている。そして在園児だけでなく、地域の方も気軽に保育園に来ていただけるような環境ができれば、保育園がみんなの近くになり、子育てのしやすさにつながっていくのかなと思う。それから学童のことで、利用しない方は実際のところは利用したいと思っているのか、何か理由があるのか気になった。」

〈教育長〉

「アンケートの結果をきちんと分析して、前回の結果と比較しながら考えていくべき。そういう中で、地域の方の協力や支援が大事。最近地域のつながりの希薄さが出ている。ここから子育てや子どもに対する支援が弱くなっていると感じる。子ども・子育てというのは基本的には将来、日本や世界、すべての文化、社会を担っていく子どもたちをまずは幸せにすべきということ。基本的には子どもたちは0歳から18歳まで広陵町にいて。そこを切れ目なく支援すること。それをどう進めていくべきか。委員の皆さまのお話を聞く中で一番大事なことは地域の人たちの支援。周りの人たちの支援、つながりがあってこそ子どもたちにつながっていくと思う。」

〈会長〉

「委員 B のおっしゃったとおり、スローガンは案3「ともにこどもの未来を応援する地域づくり」これはすごくいいなと感じた。保育の世界でも老人ホームの下に保育園を設置したりといった異世代交流。また、専門家にいくまでに気軽に相談できる場が必要だと思う。その意味でも地域の皆さまとの交流が理想。それから情報。サービスを受けるのに何が必要かなどわかりやすいツールがあれば。」

〈副会長〉

「4つ言いたい。『知る』ということがすごく大事。以前、檀原市で子育て政策について動画でまとめることをした。漢字ばかりでわかりにくいものより動画を通して伝えることができればよい。それから理念に関して、ともにこどもを支え合う地域づくりを通して、どんな未来を描いているのかが知りたい。また新谷委員がおっしゃったように、地域の人が一番の味方であるというのがアンケートから見えたので地域づくりが大切だと思った。また資料について、どこに公表するのかについても知りたい。」

〈会長〉

「これまでの意見について、事務局から回答を。」

〈事務局〉

・地域との関わりについての重要性について

今まで計画というのは町が皆さまにこの5年間でどういったことをやっていくかというお約束という面が大きかった。今後は町だけではなくて、住民、地域の方々を巻き込んで、子どもを支えていく、応援していくというところが重要という意見をいただいた。今回の意見を基に、地域との関わりについて加えさせていただければと思う。例えば各種団体の方が活動している内容を少し紹介できるページがあれば。

・アンケートの結果について

前回との比較が見えてこないというご意見をいただいた。すべて載せると逆に見にくいと思うので、比較しやすいよう工夫しながら載せていく。

・サービスの利用の周知について

事業はここに書いてあるサービスを行っているが、なかなか伝わっていない。今後は冊子やチラシだけでなく、ホームページや SNS で、また動画の話もありどこまでできるか分からないが、どういった方法がいいのか考えながら、事業の PR をさせていただきたい。サービスの内容だけでなく、使い方や用意しなければならないものもわかりやすくなるよう努めていく。

・今後のスケジュールについて

今回ご審議いただいた内容を基に修正し、その内容で住民の皆さまに見ていただく機会を設ける。(パブリックコメント)これが大体12月から1月くらいの予定。そのときにいただいたご意見について、こういうふうに対応していくと委員の皆さまに報告し、最終計画案を作成する。これが大体1月から2月の予定。それを3月議会に提出し議決をいただく。

議決後、本編はホームページ等で公開予定。本編とは別にカラー8ページくらいの概要版を作成し、公開する。

〈事務局〉議事(2)について説明

子ども・子育て会議資料について、ペーパーレス化の観点から、メール、電子での受け取りでいいという委員がいれば協力願いたい。その場合机上に置いてある紙に希望を記入し提出してほしい。電子の場合、タブレット等を会議に持ち込み、それで資料を見ていただくことも可能。

〈会長〉

議事を終了する。

〈事務局〉

次回の開催はパブリックコメントを実施した後となる。1月末から2月上旬を考えている。よろしく願います。

5. 閉会

(以下余白)